

11/25 大阪府歯科保険医協会 会誌
 発行人 志岐 敬
 大阪市浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-net.org/
 2010年第1060号 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 (毎月5、15、25日発行) ●1977年5月23日第三種郵便物認可

改正保険業法が成立

粘り強い運動結実、休保早期再開へ日途

保団連・協会の「保険医休業保障」などの自主共済・互助制度を引き続き運営できるようにする保険業法再改正法案が12日、参議院本会議で、全会一致で可決され成立した。改正法案は、2005年の保険業法改定による制度の継続が困難になっていた自主共済の存在を認め、原状復帰させる特例措置を取ったもので、5年におよぶ粘り強い適用除外運動が大きな実を結んだ。

改正法案は174通常国会に提出されたものの、首相辞任など政局に巻き込まれ継続審議となった。今臨時国会でも補正予算をめぐって国会が混乱したが、保団連と公益法人団体・自治体職員互助会などが連携した衆参財金委員への要請、各協会・地域懇話会の地

元議員要請が力となり改正が実現した。両院の財金委員会では「共済と保険は本質的に異なるもので、そもそも規制すべきではない」「(自民)、「関係者の声をよく聞いて早急に政省令を定めてもらいたい」(公明)、「今回は当面の暫定措置でもっと早く対

応できたことだ。助け合いの制度が変質しないように適用除外のあり方を議論すべき(共産)など、今後の対応に改善を求める発言が相次いだ。自見庄三郎金融相は2005年の改定時に共済事業を実施していた団体は基本的に事業の継続が可能になるとし、政省令

11・11国会行動 保険業法再改正法案の可決を求める国会行動(11日)の要請議員は、以下の通り。【面談】(衆・民)森山浩行(参・共)山下芳生【秘書対応】(衆・民)辻恵、稲見哲男、長尾敬、藤村修(参・民)梅村聡、尾立源幸、藤原正司(衆・自)竹本直一、柳本卓治(参・自)

は各団体の意見を聴取し適切なものにしたと答弁した。今後、半年以内に政省令が制定され法律が施行される見込み。

署名2万筆の成果

下井戸昭介・共済部長が談話



5年という長い期間だったが、改正法案の成立によって休業保障の再開が実現に大きく近づいた。

2005年の保険業法改定は、オレンジ共済など「共済」を騙って保険を販売した悪質業者の規制・監督が目的だった

07年には医療・歯科協会・民医連のほか、自主共済である我われの休業保障や知的障害者互助会なども規制対象とされた。

協会では休業保障を何とでも守ろうと保険業法を続けてきた。

からの適用除外を求める運動を開始し、会員・加入者の先生方から多くのご協力をいただいた。

07年には医療・歯科協会・民医連のほか、自主共済の再開のための準備を進めるとともに、将来予想される共済規制のあり方を見直しに対応するため、自主共済を守る運動を引き続き進めてい

きた。

会員とその家族、懇話会団体から寄せられた請願署名は約2万筆に上り、紹介議員を通じて国会へ提出している。これらの下地がなければ改正法案は成立しなかったろう。

政省令の制定を前に休業保障の再開のための準備を進めるとともに、将来予想される共済規制のあり方を見直しに対応するため、自主共済を守る運動を引き続き進めてい

きた。

国会要請(写真左は自民・竹本直一議員) = 07年3月8日、東京都内

協会を含め6団体が共済大阪懇話会を結成 = 07年3月4日、大阪市内

住江保団連会長が亀井静香金融相に要請 = 09年10月21日、東京都内

自主共済存続を求める運動



保険業法の適用除外求め金融庁と交渉 = 06年3月8日、東京都内



協会を含め6団体が共済大阪懇話会を結成 = 07年3月4日、大阪市内



国会要請(写真左は自民・竹本直一議員) = 07年3月8日、東京都内



全国懇話会が自主共済の存続訴え、東京・渋谷をデモ = 07年11月23日



住江保団連会長が亀井静香金融相に要請 = 09年10月21日、東京都内

生涯講座 11月研修

投与中は観血処置を回避 Bp製剤と顎骨壊死で講演

歯科臨床・学術部

歯科臨床・学術部は、大倉正也氏(大阪大学大学院口腔外科学第一教室准教授)を講師に、生涯研修講座「今昔、ビスフォスホネートのその後と口腔外科の変遷」を7日、M&Dホールで開いた。会員81人が参加した。

大倉氏は、ビスフォスホネート製剤(以下BP)に関連した顎骨壊死(BRONJ)について、一過性あるいは永続性の顎骨への血液供給不足が原因で生じる疾患と定義し、BPは悪性腫瘍に伴

う高カルシウム血症、骨髄腫、骨粗鬆症などに使用されていることを説明。現在使用されている第三世代のBPは、第一世代と比較して1万倍の効力をもつことを示した。

最近の骨粗鬆症の薬剤名を挙げながら、注射投与前にできる限り歯科治療を先行し、注射投与中の患者には観血処置は避け、保存療法のみによること。経口BP投与3年以上またはステロイドと併用している場合、観血

処置は口腔外科に紹介することなど、治療時の注意点を述べた。経口BP投与中は定期的な歯科検診と口腔清掃が必要であること、経口BPを中止すると大腿骨などの骨折を増加するので中止すべきでないことなど、BRONJの臨床診断基準についても話した。

また、同氏は歯科治療中の血液飛沫と空気中分散(エアロゾル)について述べ、タービンによる形成や超音波スケーリングで分離した所にまで

浮遊血液があると指摘。飛沫感染症としてウイルス感染症と細菌性肝炎、空気中分散として水ぼうそう、はしか、結核などを挙げた。血液感染ではHIV、HBV、HCV、クロイツフェルト、ヤコブ病が代表的であるとし、注意を促した。

ヒトパピローマウイルス16に感染すると、口腔咽頭部に扁平上皮がんを発生するリスクを高める。口腔がんは40歳以上が92%を占め、男女比2対1となっている。口腔炎が2週間以上おさまらなければ、口腔外科を紹介する方がよいと話し、質疑応答をし、講演を終了した。

大村も福沢も医者であった。それも病理学や細菌学が躍進した時代の医者だった。が、彼等の野心と夢は患者を診ることを止めて成就した。

いま、友人の子弟で医療人を志さず、或いは転身して他分野で働く若者が少なくない。それが若者の夢と野心を託せられ

社会が求める物ならば、成功を祈るだけである。

歯界

大村益次郎と福沢諭吉は適塾の先輩と後輩の間柄だが、性格も出自も全然違う。共通点としては、優れた知性と若者らしい夢と野心を秘めていた。

大村は自ら求めて渦中に飛び込んだ訳でもなく、長州のコレやつての成り行きで、歴史に名を刻む成功者となり、その結果当時の著名な志士らしく横死した。

福沢は戦争にも巻き込まれず、無事に混乱の時代を生き抜き、有為の若者だけでなく政府の高官までがその言を拝聴する地位にまで上り詰めながら「言いたい事言いたい」の若年の頃からの癖を持ち続けたまままで天寿をまっとうした。

大村も福沢も医者であった。それも病理学や細菌学が躍進した時代の医者だった。が、彼等の野心と夢は患者を診ることを止めて成就した。

いま、友人の子弟で医療人を志さず、或いは転身して他分野で働く若者が少なくない。それが若者の夢と野心を託せられ

社会が求める物ならば、成功を祈るだけである。

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)